

復活節第四主日礼拝

《主日朝礼拝式次第》

【入祭の部】

前 奏 (黙祷)	司式補佐 寺田律子
「プレリュード」	奏 楽 鹿野幸枝
D.フレスコバルディ作曲	献金当番 白井久美子
あいさつ	受付当番 澤田昌人
讃美 美	【本日の礼拝奉仕者】
開会の祈り	司式補佐 寺田律子
交説詩篇	奏 楽 鹿野幸枝
	献金当番 白井久美子
	受付当番 澤田昌人
	【本日の予定】
	◇教会学校 (朝9時30分)
	・お話し:澤田昌人
	◇讃美歌練習 (礼拝後)
	◇合同祈祷会 (礼拝後)
	◇教会学校教師会 (礼拝後)
	【今週の教会での集会のご案内】
	◇朝の祈り
	・祈祷予定表の通り
	◇英会話グループ
	・5月15日 (木) 午後7時30分
	【次週主日5月18日のご案内】
	◇教会学校礼拝 (午前9時30分)
	・お話し:井上万里子
	◇主日朝礼拝 (午前10時30分)
	・聖書
	・ヨハネによる福音書21章1~14節 (新P.211)
	・教話
	『夜明けの漁』
	・讃美歌21 321、39-4、317
	・交説詩篇 詩編117:1~2
	・司式補佐 澤田昌人
	・奏 楽 飯田雅子
	・献金当番 アナスタシア・V
	・受付当番 屋宮英男
	◇讃美歌練習 (礼拝後)
	◇合同祈祷会 (礼拝後)
	◇伝道委員会 (礼拝後)

【第一部 み言葉の礼拝】

聖書	コロサイの信徒への手紙3章1~10節 (新P.371)
+	ヨハネによる福音書20章11~18節 (新P.209)
応答唱	讃美歌21/39-4番
教話	井上隆晶牧師
『なぜ、泣いているのか』	
使徒信条	

【第二部 聖餐礼拝】

奉 献	讃美歌21/81番
教会の祈り (連祷)	
平和の挨拶	
讃美栄	讃美歌21/83番
主のいのり	
陪 餐	

【応答と派遣と祝福】

讃美	讃美歌21/332番
感謝の献物	
栄光の讃美	讃美歌21/24番
祝福の祈り	井上隆晶牧師
後 奏 (黙祷)	
「小フーガ」	
K.コルプ作曲	

聖句

「イエスは言われた。『わたしにすがりつくのはよしない。まだ父のもとへ上つていらないのだから。』」

(ヨハネ20章13節)

【諸報告・個人消息】

①『今週の井上牧師の予定』: 12日 (月) 昼12時「シャロン千里お誕生日会」、午後3時「あやめ保育園理事会」、13日 (火) 午後2時「人事部委員会」、14日 (水) 午後1時30分「シャロン千里礼拝」、午後3時「面接」、17日 (土) 午前10時30分「ハレパーステーション講話」

②『5月の行事のお知らせ』

■5月20日 (火) 午前10時「心の病の勉強会」
 ■5月27日 (日) 午後1時「教会修養会 (会堂建築について)」昼食は教会で用意します。大切な修養会です。できるだけご参加ください。
 ■5月31日 (土) 午前10時「大阪キリスト教連合会一致祈祷会」(大阪福島教会)、奮ってご参加ください。

③【祈禱課題】

- 新しい礼拝堂を建築するため。
- ウクライナとガザの戦争被災者のため。

④【先週の集会統計】

日	集会	男子	女子	大人	計	礼拝献金
4	CS礼拝	—	1	5	6	¥2,000
	集会	男	女	子ども	計	礼拝献金
4	朝の礼拝	8	16	4	28	¥14,150
8	朝の祈り	1	1	—	2	
9	朝の祈り	1	3	—	4	

⑤【5/4の献金報告】

【月定】井上隆晶、相澤美子、飯田雅子、井上万里子、井上朝子、井上聖一朗、勝見仁、黒澤なおみ、小渕公子、小渕賀裕、鹿野幸枝、寺田律子、畠季史子、畠真理奈、菱田朱美、山千代憲一、山千代誠子 (計125,000円) [イースター] 飯田雅子、畠季史子、畠真理奈、山添悦子 (計23,000円) [各種感謝] 相澤美子、阪口恵美子、成尾京子 (計14,000円) [建築] 井上隆晶、飯田雅子、井上万里子、寺田律子、畠季史子、畠真理奈 (計16,500円) [互助] 井上隆晶、井上万里子、屋宮英男、寺田律子 (計5,000円)

【先週の説教要旨の続き】

た!』という挨拶です。

私は今回、ここを読んで気づいたことがあります。旅人は聖書の説明はしますが、自分がイエスだとは言っていません。晚餐の時にも客は自分がイエスだと言っていません。イエス様は何も証していないのです。弟子たちはイエス様が「私だと証したから目が開いたではありません。弟子たちは、説教と聖餐によって目が開いたのです。説教と聖餐がイエス様を証しているということです。別な言い方をしたら、説教と聖餐の中にキリストはおられ、説教と聖餐によってイエス様は私と共におられるのが見えてくるということです。「本当に主は復活された」とは、主は今も生きていて、働いておられるということです。ではどこにおられ、どこで働くのか?それは皆さんの中におられ、皆さんを通して働くのです。その昔はマリアから取った肉体を通してその時代に姿を現し、働かれました。その後は、すべての時代に、すべてのキリスト教徒の肉体を通して働いておられるのです。今の時代に働くために、主は皆さんの体が必要なのです。だから主は受肉して皆さんの中に共におられます。キリスト教徒とキリストとは夫婦の様に永遠の絆で結ばれており、徐々にあの方に私たち似てくるのです。ああ、キリスト教徒は何と祝福された者なのでしょう。主はあなたの中におられます。その主を見たくありませんか?主と交わりなさい。み言葉を実践しなさい。するとあなたはキリストがあなたと共にいることに目が開くでしょう。

